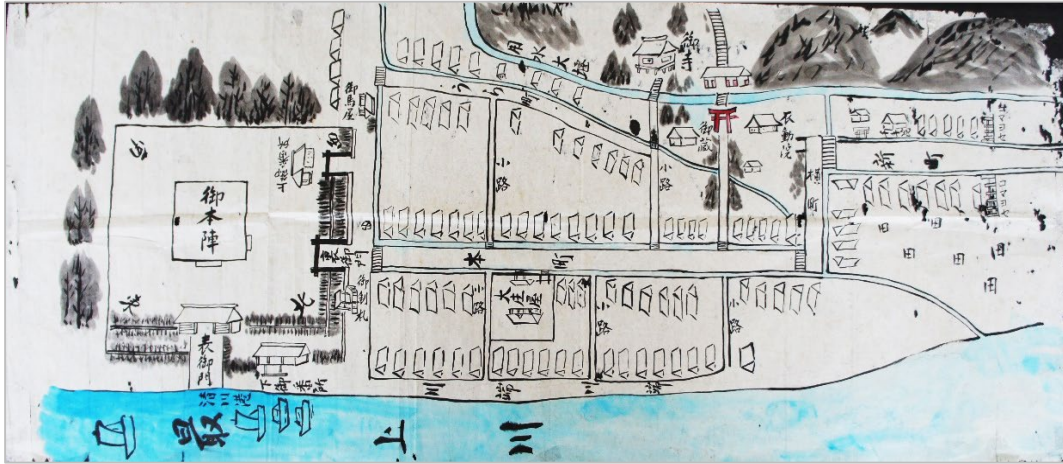


# 清川関所とはどんなところ？

## 最上川交通の要衝、出羽三山詣での登拝口



清川絵図：清河八郎記念館所蔵

# 清川歴史公園かわら版

発行所  
清川歴史公園  
管理運営委員会  
連絡先  
庄内町商工観光課  
立川地域観光振興係

清川は昔からの最上川交通の要衝で、藩に出入りする人や物を関所で厳重に調べていました。資料によると、関所は朝六時に開扉し、午後六時に閉扉していたとのこと。関所を通行するには「手形」と呼ばれる通行許可証が必要でした。

「西の伊勢参り、東の奥参り」と呼ばれるほど信仰のある出羽三山詣での登拝口として、清川は大いににぎわったと言われています。清川に上陸した羽黒山参拝者は一年に三万人を超えるほどで、ある年には五月から八月までの三か月間に三六、三〇四人参ったという記録もあります。

清川歴史公園管理運営委員会では、食堂・売店・ガイドなどに協力いただける方、一緒に地域を盛り上げていただける方を募集しています。役場商工観光課までぜひお声がけください。

連絡先 〇二三四五六二二二二三

### 陣幕は荘内藩家紋

川口番所の軒下に設置される陣幕には、荘内藩の家紋が入ります。七月二十六日に原田町長と当委員会の委員が、旧荘内藩主酒井家十八代当主酒井忠久様にお会いして、家紋の利便についてご承諾いただきました。また、致道博物館からは関所の資料等、今後も相談ののつていただけることとなり、復元と資料整備への大きな一歩となりました。



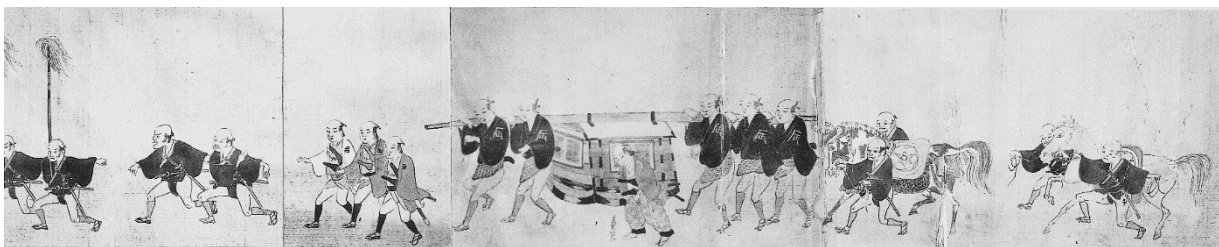
参考：北国街道・関川の関所

「丸に片喰」

## 写真で振り返る清川の歴史

【参勤交代・大名行列の図】  
江戸時代、全国各藩の藩主を毎年四月に自領から江戸へ一年交代で定期的に行き来させた参勤交代制度。藩主の参勤交代の時の清川のにぎわいは格別だったと言われています。朝、鶴岡を出発して清川に一泊、清川から乗船して最上川を進み、清水（大蔵村）で上陸し、陸路舟形に出て羽州街道によって江戸に入るのが通常のコース。一七六四（明和二）年七月、幕府の老中を勤め終わって鶴岡に帰国した第七代藩主酒井忠寄公の時に用意された船の数は一三三艘、一行は七〇〇人にもものぼったと言われています。

【参考】「写真でみる清川の歴史」（清川公民館発行）



# 管理運営委員会ではこんなことを話し合っています

■展示品・企画展部会  
展示品・企画展部会では、施設内の展示品の選定や案内看板・パンフレット等の内容を検討しています。

展示品については、「関所」「最上川舟運」「御茶屋・大庄屋」「関所を通った文人・墨客」「明治天皇行在所」「戊辰戦争」など様々な貴重な資料が残っており、それらの展示方法などを話し合っています。また、日本遺産関連の補助金を活用し、施設のパンフレットやまち歩きに最適なマップ・案内看板などを作成するため、その内容について検討を重ねています。



■観光案内部会  
観光案内部会では、「説明資料のマニュアル化」「ガイド料金の改正」「受付の連絡体制」などについて話し合いを行っています。

「説明資料のマニュアル化」は、誰がガイドしてもお客様に同等の説明ができることを目的としております。また、まち歩きの通常コースは二時間かかりますが、時間やテーマごとにコース設定するなどの検討もしています。

お客様から楽しんでいただくため、今後も協力して頑張ります。

■食堂・売店(特産品)部会  
食堂・売店(特産品)部会では、施設内の厨房を利用して食堂を経営予定です。現在、保健所への営業許可申請に係る相談も行っており、今後は規約・営業時間・人員体制・メニュー・値段など詳細な内容について協議していきます。

部会メンバー以外にも携わっていただける方を募集中ですので、興味のある方はお問合せください。

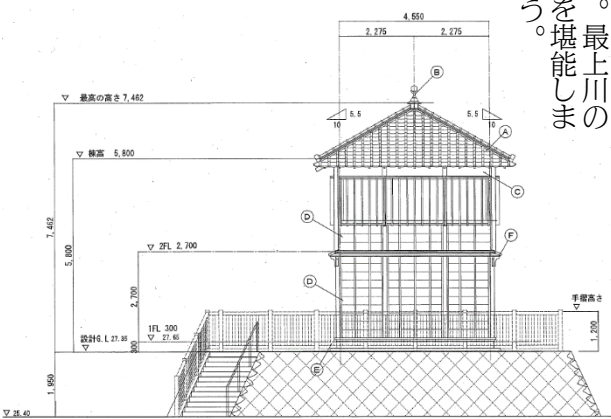


清川歴史公園管理運営委員会・部会のような様子

## 歴史資料で見る「清川関所」

「立川町史上巻」を見ると、清川村に、抜荷(幕府の禁令を破って行われた密貿易)を取り締まるための船見番所を建てることについては、事情がこみついていろいろ変化があり、結局は番所の上(かみ)、御茶屋(本陣)地囲前に、天保八年秋までに小屋掛をして、船改めを開始することになった、とあります。

その後、明治四年に取り壊しになりますが、今回、清川歴史公園の中に、船見番所(走り上がり)も整備されます。最上川の眺めを堪能しましょう。



## 清河八郎情報



清河八郎座像: 清河八郎記念館

■「トランヴェール」に掲載されました  
新幹線に乗ると、乗客用の読み物として無料で持ち帰りできる「トランヴェール」という冊子が座席ポケットに設置されています。十一月号では「幕末の英傑が庄内に残したのもの」という特集で西郷隆盛と清河八郎がとり上げられています。庄内地方在住の方はもちろん、庄内や清河八郎を知らない方、様々な地方からの旅行者など多くの方の目に触れる冊子で二十二ページにも渡る特集となっています。インターネットで「東日本 トランヴェール」と検索いただくと、「東日本のホームページ」でご覧いただけます。

■明治維新一五〇年記念事業「フォーラム」の開催状況

十一月十日、十一日に開催されたフォーラムは、多くのおみなさんにご参加いただき盛会となりました。パネルディスカッションでは「清河八郎と西郷隆盛は接触していたのでは?」など、残された文献の間の空白の時間に妄想を膨らませるなどしながら「早すぎた天才」のことを考える二日間となりました。ご協力・ご参加いただいた皆様から感謝いたします。